

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 古川 建三

JR東労組

本部OB会

ニユース

No. 254 2018年 3月発行

悪夢の大震災から7年

原発避難者の猪狩さんの今

各地の原発再稼働と、首都直下地震が心配と語る



昨年夏子供達からプレゼントされた
沖縄旅行で喜ぶ猪狩さんと奥さん

猪狩さんが「3・11東日本大震災」に遭遇したのは、福島県楡葉町の国勢調査委員の研修旅行中で、東電所有の「電気館」で説明を受けている時でした。とっさに身を伏せ揺れが収まるのを待って、その日はそのまま貸切りバスの中で眠れぬ夜を過ごしたそうです。

その翌日に福島第一原発の一号機原子炉建屋が水素爆発し、連絡の取れない奥さんの身を案じながら、研修参加者と一緒に、いわき市の小学校体育館に避難しました。

そこで不自由な避難生活を送って、

被災当日

あの「3・11東日本大震災」から7年目を迎えました。まだまだ被災地では復興もままならず、街に住民が戻ってきていません。特に福島第一原発事故によって避難生活を強いられた人々の苦悩は、いまだに癒されることはありません。

今回本部OB会は、福島第一原発から約20Km離れた楡葉町で原発事故に遭い、長期間避難生活をされた水戸地本いわき支部OB会の猪狩公男さん(76歳)を取材しました。

避難先での生活

最初は小学校の体育館に避難していましたが、新学期が始まるので、今度は会津美里町の体育館に移動しました。体育館の周りは雪の山で、館内は石油ストーブが7台あるだけで、夜は支給された毛布を床に敷き、残った毛布にくるまって寒さをしのぎながら休む日が続きました。

食事は毎日パンとおにぎりが支給され、中には賞味期限が切れた物も多かったそうです。それでも有難くいただいたと云っています。またこの時ほど、温かい味噌汁が恋しかった事はなかったそうです。

その後長い体育館生活が辛くなり、一戸建の家に移って避難生活を送りました。しかし初めての長い避難生活と知人もいないことからストレスが溜まり、それが原因で糖尿病を発症し、追い打ちをかける様に白内障にもなりました。

一番辛かったのは、毎日朝晩の雪掻きだったそうです。会津地方は特に降雪量も多く、70才を越えた年寄

今の生活

2年前に楡葉町に避難解除指示が出されたので、猪狩さんも自宅に戻る決意をしました。自宅は荒れ果てていましたが、修理をして昨年春に住み馴れた家に戻りました。

しかし町民はまだ少なく、近くにコンビニがあるぐらいで、生鮮食料品などは奥さんが車で40分かけていわき市の方に買いに行っています。また月2回は、会津にいた時に痛めた腰痛の治療のために、整体院に通っています。

最近嬉しい事があったそうです。初孫が出来たのです。それこそ何年か振りに夫婦で大喜びをして、「これでまた生きて行く希望ができた」と、本当に嬉しそうに話し、その声を聞いてホッとした。

しかし心配事もあると語っています。福島であれだけの事故があったのに、全国各地で原発再稼働の話が耳に入ってくる時、逃げ惑った当時の事が思い出され嫌な気分になる事と、娘さんが住んでいる東京で「首都直下地震」が起きないか不安になるそうです。

取材をしていて、今まで胸の内に閉じ込めていた感情を爆発させるように取材に応じてくれた猪狩さんの話を聞いて、これからは嫌な事は忘れてお孫さんの成長を楽しみながら元気に生きて行こうとする姿が伝わってきました。

JR東労組第44回定中で 「格差ベア根絶」方針を決定

その後組合員の利益を第一に 「闘争解除指令」後も、団交は継続

2月9日都内の「ホテルラングウッド」で、「JR東労組第44回定期中央委員会」が開催されました。
この定期中央委員会では、当面する18春闘を中心とした春季闘争の方針が決定されました。その中で、組合が求めてきた「格差ベアの根絶」に対して、今までの議論経過を無視した会社の回答があり、今後あらゆる戦術の行使を含めた闘争方針で解決を求めて行く事になりました。

この定中には、本部OB会の古川会長と伊藤事務局長も参加しました。

定中では、20数名の委員から36協定締結を巡る、12地本統一した取り組みの成果と、18春闘を巡る意見を中心にした発言がありました。

特に「格差ベア」を根絶させる組合方針に対しては、力強い支持意見が多く出されました。

なお定中では、

- ① 18春闘に向けた取り組み
定期昇給を含まず組合員一律6000円、グリーンスタッフとエルダーは、基本賃金4000円の引き上げを要求する。格差ベアを根絶するため、あらゆる戦術行使で闘う
- ② 政策実現に向けた取り組み

一日乗車人員2000人未満の23線区の現地調査を行い、「利便性」、「安全性」、「福祉性」、「観光性」を地域住民に訴え、ロカル線を存続させる

③ 組織強化に向けた取り組み
エルダー組合員との更なる関係強化し、JR東労組への継続加入とOB会100%加入をめざすなどの方針を決定しました。

なおJR東労組は、2月23日の団交で「これまでベアの算出基礎にしてきた所定昇給額にこだわらない」等を会社と確認して、24日「闘争解除指令」を発生しました。

「労使関係」が重要な時期を迎えている今、OB会はこれからもしっかり現役を支援して行きましょう。

わが町の 有名人

新潟地本OB会
は直江津支部OB会
の小関敏明
さんです。

小関さんは昭和40年に直江津機関区に就職し、長年運転士をした後、指導機関士になり若手の育成に力を注ぎました。

30歳の時、硬式テニスの人口が少なかった時代、数人の仲間とクラブを立ち上げ、5年後には会員数180数名を有する上越市最大のクラブに成長させました。

「ねりんピック」の有名人

奥さんとは同級生で、今も二人でテニスを楽しむ理想のご夫婦です。テニスの思い出を聞いたところ、シニアになって「ねりんピック」の全国大会に、「新潟県の代表兼監督」として参加した石川大会と宮城大会が心に残っているそうです。

小関さんのテニスは、趣味の域を越え、「ねりんピック」では「全国の有名人」になっています。



また趣味も多く、テニスの他に海釣り・絵画・盆栽等多芸に秀でています。ある一日のスケジュールは、早朝に起床し港の堤防でアジ釣りをし、明るくなるまで畑の手入れと収穫。

朝食後は、テニスの練習。午後からは絵の勉強と盆栽の手入れ。これが小関さんの一日です。周りからは「無理しないで」と心配されていますが、しかし本人は涼しい顔をしています。まさに「鉄人」です。

(上越市在住・小関 敏明・71歳)

日本退職者連合が今年も 事務局長会議と院内集会を開く!

日本退職者連合は2月14日と15日の西日、「2018年全国事務局長会議」と「政策・制度要求実現2・15院内集会」を開催しました。

全国事務局長会議

2月14日13時より連合会館の会議室で開催された「全国事務局長会議」には、23産別・関連退連と47地方退連の事務局長が参加しました。JR総連OB連絡会からは伊藤事務局長(JR東労組)が参加しました。

まず会議冒頭で、国民生活センターの鈴木基代さんから「高齢者の消費者トラブルとトラブル防止のために」と題した講演を受けました。

会議では、組織拡大の報告と「春の政策・制度要求」の確認をしました。また会議では、組織強化の為に「教宣活動の強化」が訴えられました。

なおこの会議には、群馬県退職者連合の事務局長に昨年就任した飯島徹夫氏(元高崎地本OB会長)も初めて参加しました。

院内集会

翌日の15日は、朝10時から参議院議員会館講堂で、第196通常国会に向けた「政策・制度要求実現2・15集会」が300名の参加者で開催されました。JR総連OB連絡会からは、JR東労組とJR貨物労組のOB会から6名が参加しました。

来賓席には、立憲民主党、民進党、希望の党、社民党の各代表の多彩な顔ぶれが並びました。
集会では連合生活福祉局長より、「2018年度・政府予算案と国会提出法案に対する連合の考え」が報告されました。
退職者連合は、国会の山場で傍聴行動をとって野党議員を応援して行く、参加者に話をしました。

お詫び

年末に配送した「組合カレンダー」が会員に届かなかった事象がありました。ここに謹んでお詫びを申し上げます。

=本部OB会事務局=

JR東労組本部OB会 第22回定期総会

- * 日時
2018年4月20日(金)12時~
 - * 場所
JR東労組本部大会議室
- 先を見据えた活動方針を
みんなの力でつくり出そう!